

# ISUUKA

## 渭水会々報

2025.12月発行

Vol. 54



撮影／幸田青滋

### 「sparkling tomorrow ～輝く明日へ～」 武田亜希子氏

青空を映して輝く巨大なモニュメントは、徳島大学総合科学部創立150周年を記念して、本学卒業生の彫刻家・武田亜希子さんによって制作されました。空模様や風、日々移り行くキャンパスの景色、そして、総合科学部の未来をも映し込んで、今日もキラキラと輝いています。(2024年10月19日、渭水会寄贈)



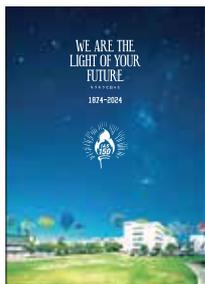
ご協力ありがとうございました

# 渭水会オリジナル 創立150周年記念グッズで 引き続き総合科学部を応援しよう!!

総合科学部創立150周年記念事業への皆様の多大なご協力に心よりお礼を申し上げます。渭水会は、“徳島大学愛”あふれるオリジナル記念グッズで、引き続き総合科学部を応援してまいります。ぜひご購入ください。売り上げは、制作費を除いて全額、学部に寄附いたします。

## キラキラな日々を **メモ帳**

**500円**  
(税込)

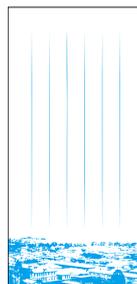


表紙は総合科学部のキャンパス。中身はToDoメモになっています。毎日使ってキラキラな日々を創っていきましょう!

●A6サイズ。30枚綴り。

## 出藍之誉 **一筆箋**

**500円**  
(税込)



「青は藍より出でて藍より青し」母校から大きく羽ばたいてほしい。そんな願いを美しい一筆箋にしました。中身は昔のキャンパスの写真を加工しています。

●30枚綴り。

## マカロン付箋

1個  
**400円**  
(税込)



左からピンク、アイボリー、オレンジ  
(ブルーは売り切れ)

まるでお菓子のマカロンのような可愛い付箋。ぷにぷにのカバー部分に渭水会のマークをあしらっています。お好きな色をお選びください。

●80枚綴り。

## 150周年記念セット

**1,500円**  
(税込)



「全部ほしい!」という方のために、メモ帳、一筆箋にマカロン付箋2つをセットにしました。300円もお得です!

●マカロン付箋はお好きな色をお選びください。

### ご注文方法

- ◆ご住所、お名前、ご連絡先(電話)、ご希望の商品と点数(マカロン付箋はご希望の色も)を事務局までお知らせください。
- ◆代金は商品発送時に同封しております郵便振替用紙にてお支払いください。手数料はご負担ください。
- ◆3,000円以上ご購入で送料無料となります。
- ◆お申込先: 渭水会事務局 電話: 088-656-7293 FAX: 088-679-8485 E-mail: info@isuikai.jp

## 記念グッズの売り上げを 総合科学部に寄附しました!!

完売した記念グッズ第1弾に続き、第2弾も好評をいただいています。2025年3月時点での売り上げから制作費を除いた6万円を、2025年3月25日、総合科学部に寄附しました。



石井会長から高橋学部長(当時)に贈呈されました▶



# 目次

## 徳島大学総合科学部創立150周年記念グッズで引き続き総合科学部を応援しよう!!

ストレスとの付き合い方 涓水会会長 石井 博 …… 4

学部長からのご挨拶 総合科学部長 三浦 哉 …… 5

**特集** 徳島大学総合科学部創立150周年記念事業 …… 6

### 連載⑦ パターン認知の心理をめぐって

● 錯視的輪郭における線端の効果 徳島大学名誉教授 濱田 治良 …… 10

### TOPICS 徳島大学附属図書館所蔵の伊能図が国重要文化財指定に!

徳島大学名誉教授 平井 松午 …… 11

### 連載⑦ 総科をたずねて

● 大阪・関西万博での経験と博士課程で取り組む「AI対話パートナー」研究

徳島大学大学院創成科学研究科 博士後期課程1年 麻植 義喜 …… 14

### 連載⑫ 私の職場 My Workplace

● 「地域おこし協力隊」に結びついた大学時代の学び 中島 健太 …… 16

### 連載⑬ 研究最前線

● 神経発達症児者への支援と遠隔技術を活用した新しい支援のかたち

徳島大学 総合科学部 心身健康コース 准教授 榎本 拓哉 …… 18

常三島今昔⑤ ● モニュメント除幕式 …… 19

### 輝く新星⑪ ～第11回涓水会会長賞～

● 視野を広げる学び、未来へつながる研究 西條真結乃 …… 20

● 自分らしく学び、挑戦できた4年間 秋月さくら …… 21

● 学び意見を述べることの大切さ 後藤 亮 …… 22

● 涓水会会長賞表彰要項 …… 23

**追悼** 吉森章夫先生を偲んで 齋藤 裕瑞 …… 24

### 助成事業

● 徳島市退職校長会講演会 石川 和幸 …… 25

総科ニュース …… 26

徳大ニュース …… 28

事務局だより・編集後記・総合科学部クイズ解答 …… 29

お詫びと  
訂正

昨年の会報第53号の記載内容に誤りがございました。読者の皆様及び関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。ここに深くお詫びし、訂正させていただきます。

P27 「徳島大学地学教室 講演会」の文中2行目

誤) 松田英俊 → 正) 増田英俊



渭水会会長  
いしい ひろし  
石井 博

## ストレスとの付き合い方

まず初めに本同窓会の礎を築き、長きにわたり大黒柱として私たちを導いてくださった吉森章夫先生が、2025年3月5日、静かに旅立たれました。そのご逝去の報に接し、深い悲しみとともに、心より感謝の念を捧げます。

私が元会長・佐藤 勉先生から渭水会会長職を引き継ぐ話をいただいた時、佐藤先生に不安な胸中を打ち明けたら「吉森先生という渭水会の生き字引のような方がおいでるので、迷ったり不安な時は何でも相談したらの確なアドバイスをいただけるから」との助言を戴き、吉森先生の存在が会長職をお引き受けさせて戴く決め手となりました。

吉森先生の残してくださった言葉、行動、そして思いは、今も私たちの心に深く息づいています。これからもその志を胸に、同窓会の歩みをしっかりと進めてまいります。

吉森先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、大学を巣立ってから幾年、私たちはそれぞれの道で多くの経験を重ねてきました。その中で、避けて通れないのが「ストレス」との付き合い方です。

最近の調査によると、若者の高い離職率と職場でのストレスには深い関係があるようで、20代社員の約2割が「日常生活が困難なレベル」のメンタル不調を経験していて、そのうち約半数が通院治療中。特にメンタル不調を抱えた20代の離職率は約36%と、他の年代よりも高い傾向にあります。休職後に退職する割合も高く、職場に相談せずに離職するケースも多いようです。

ストレスの要因として、ブラック環境では「精神論」「トップダウン型の指示」「忠誠心の強要」など、ホワイト環境でも「協調性の強要」「実力主義」「専門性のプレッシャー」などがストレスになっているようです。

背景にあるものを推測すると、スマホの長時間利用によるテクノストレスや、テレワークによる孤独感も若者のストレス耐性を下げている可能性があり、また、教育環境の変化で「失敗への耐性」が弱くなっていることも、メンタル不調の一因になっているのではないかと思います。

近年、社会の変化はめまぐるしく、仕事や家庭、人間関係など、私たちの心にさまざまな負荷をかけてきます。けれど、ストレスは必ずしも悪者ではありません。適度な緊張は集中力を高め、成長のきっかけにもなります。大切なのはそれをどう受け止め、どう向き合うかだと思います。

以前に私自身強いストレスが重なり心が折れそうになったとき、偶然目にした四万十川のほとりの診療所・小笠原医師のエッセイの次の一文が心を軽くしてくれました。

“ストレスをしょいこむのが趣味のような、ストレスもつれの人がいる。どんなときもにこっとするまるごとのいい人で、頼まれたら断れない人が多い。

「これ以上わたしには無理です」「今日は代わってくれませんか」を口にしようと、僕はお勧めする。「さぼるのは気持ちいいですよ」とも言う。

ストレスをきちんと数えること、一番は何、二番目は何と指を折る、そして三つ目は自分がつぶれないように、今はともかく棚上げする。これがぼくのお勧め。

自分の心を冷静に確認して、三番目のストレスに要注意。心が壊れないように、ストレスを二つまでにしませんか。”

私自身、人生最大のピンチをこの一文と先輩からの次のアドバイスで乗り切ることができました。

「強風に逆らうのではなく、しなやかに揺れながら根を深く張る。無理に耐えようとせず、時には立ち止まり、深呼吸を試みる。自然の中に身を置いたり、信頼できる人と話したり、自分なりのリズムを取り戻す時間を持つことが、心の回復につながるよ」

私たちには大学時代に築いた絆があります。同窓会は、そんな絆を再確認し、互いに支え合う場でもあります。悩みを共有することで、心が軽くなることもあるでしょう。この会報が、皆さまにとって少しでも心の安らぎとなれば幸いです。

最後に、皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(昭和49年 教育学部中学校教員養成課程保健体育科卒)



総合科学部長  
みうら はじめ  
三浦 哉

## 学部長からのご挨拶

涓水会の会員の皆様には、日頃より、様々な形で総合科学部・大学院の教育、研究、運営などにご支援いただき、誠にありがとうございます。

この4月より、高橋普一前学部長の後任として学部長に就任いたしました。今後とも、皆様のご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。出身は新潟県上越市（旧高田市）で、京都教育大学卒業、中京大学大学院博士課程修了後、1995年に徳島大学に助手として着任いたしました。途中、米国ペンシルバニア大学に客員講師として1年赴任しておりましたが、徳島での生活は30年目になりました。専門分野は、応用生理学、医用生体工学で、現在、歩行アシストロボット・骨格筋電気刺激などを用いた心疾患予防のための運動プログラムの開発、網膜血管機能を評価することで脳血管疾患予防の運動プログラムの開発などに関する研究を進めています。また、20年以上、生活習慣病・介護予防に関連する事業を自治体等々連携しながら実施したり、全国レベルで活躍しているスポーツ競技選手の科学的サポートも実施し、非力ながら地域住民の健康づくり、県内競技選手の競技力向上に貢献させていただいております。

総合科学部は、「教育」、「研究」、「地域貢献」の三本柱を中心に、学生、教職員ともに積極的に活動しております。「教育」に関しては、グローバル人材育成が一つの目標となっており、留学プログラムの充実を目指しています。現在、38の長期、短期の留学・国際交流プログラムが用意され、多くの学生が利用しています。コロナ禍では、一時的に留学者数の減少がありましたが、最近では徐々にそれも解消され、国際交流が以前のように盛んになってきております。「研究」に関しては、科学研究費等の外部資金の獲得が増加傾向にあり、また、昨年度、GIS関係で2件、心理健康関係で5件、世界遺産関

係で1件、学術会議等の団体から表彰されております。「地域貢献」に関しては、各教員が自治体等との連携事業を実施しており、さらに、JR四国主催の旅行期間コンペなどの事業に教員のみならず、学生を交えながら積極的に活動しております。

大学院は、博士前期課程に地域創成専攻、臨床心理学専攻、博士後期課程に創成学専攻で構成され、社会人大学院生も多く在籍し、リカレント・リスキリング教育に大きく貢献しております。

「教育」、「研究」、「地域貢献」の活動・実績は、互いに関連付けながら、教育に応用され、さらなる高度な研究につながるなど、少しずつではありますが三位一体となり発展しつつあります。今後も学部長として、うまくマネジメントしながら、さらに高みを目指していきたいと思っております。

さて、昨年10月には、涓水会の会員の皆様方のご支援、ご協力をいただきながら、総合科学部150周年記念事業が盛大に開催されました。当日の式典には、文部科学省の井上氏、徳島県知事の後藤田氏をはじめ、190名あまりの関係者にご参加いただき、その後の記念講演会では、本学卒業生である武知氏、ミズノ株式会社の尾崎氏などにご講演いただきました。本事業への寄附金も約600万円余りにも達し、これもひとえに涓水会をはじめとするOBの皆様の賜物と感謝申し上げます。関連の寄附金は、今後、在校生のために有効に活用させていただこうと思っております。

学部、大学院ともに年々変化、成長しておりますが、総合科学部200周年に向けて、会員の皆様のご期待に添えるような学部、大学院の実現に努める所存です。今後とも皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。

# 創立150周年記念事業



2024年、徳島大学総合科学部は、その前身である徳島師範期成学校の創設から150周年を迎えました。学生会ではこの大きな節目を記念してモニュメントを制作・寄贈しました。制作は、総合科学部卒業の彫刻家・武田亜希子氏に依頼。2024年10月19日、除幕式が行われ、ついに作品がお披露目されました。



2024年10月  
ステンレス H210cm×W380cm×D210cm  
撮影 幸田青滋

## 徳島大学総合科学部創立150周年記念モニュメント sparkling tomorrow ～輝く明日へ～

徳島大学総合科学部創立150周年を記念し、「輝く明るい未来」をイメージする輝きと力強さを持った作品を意図しました。素材はステンレスで無垢の角材を使用。光や影、通り抜ける風などを取り込み、自然と調和してハーモニーを奏でる。その時間と共に移りゆく風景をモニュメントを眺めながら味わっていただけたらと思います。

武田 亜希子



### 武田 亜希子 Akiko Takeda

1980年阿南市生まれ。2003年徳島大学総合科学部人間社会学科 国際文化研究コース（芸術・彫刻専攻）卒業。抽象彫刻をはじめとした、身近な生活環境と調和し、環境を生かす作品を多数制作。県立学校の美術教諭をしながら作品制作を行い、個展や二紀展、グループ展に意欲的に出展している。徳島県内を中心にパブリックコレクションも多い。第22回国民文化祭野外彫刻展にて国民文化祭実行委員会会長賞受賞。二紀展にて奨励賞、準会員賞、I氏賞、第5回とくしま芸術文化奨励賞などを受賞。日本美術家連盟会員／二紀会会員／徳島県立城北高等学校教諭

### パブリックコレクション

徳島県ケンチョピアみなと公園「宇宙時計」  
阿南市コスモホール「星のステップ」  
徳島市銀座商店街「message」  
徳島市立高等学校「月の譜」  
（創立50周年記念モニュメント）  
徳島市立高等学校「明日へのメッセージ」  
（弓道部記念モニュメント）  
ポリテクセンター徳島「未来観測」  
後藤田法律事務所「プラネット」

## モニュメント寄贈・除幕式が行われました

2024年10月19日11時、記念式典に先立って、モニュメントの除幕式が行われました。石井博涓水会会長の挨拶に続いて、総合科学部、涓水会、そして制作者の武田亜希子さんによって幕が引かれ、モニュメントがついにお目見え。シルバーに光り輝く幅3.8m、高さ2.1mという巨大な作品に歓声が上がりました。武田さんの大学時代の恩師である河崎良行名誉教授による祝辞に続き、武田さんからご挨拶をいただきました。

武田さんは「師範学校から徳島大学学芸学部、教育学部を引き継ぎ150年という長い歴史を誇る徳島大学総合科学部の同窓生の一人として、モニュメントを設置できることを光栄に思うと共に、ご支援ご協力下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです」と感無量の面持ち。また、「グローバル社会の中で主体性と責任感を持ってチャレンジしていく人材が徳島大学総合科学部から多く輩出されることを願って作った作品でもあります。希望いっぱいの学生の皆さんにエールが届くと嬉しいです」と語られました。

日々の空模様や、季節ごとに移ろう周囲の景観を映して佇むモニュメントは、存在感たっぷりながらも、不思議と景色に溶け込んでいます。その姿は50年、100年先の徳島大学の輝く未来を予感させてくれます。



除幕の綱引き役は平木美鶴教授、河崎良行名誉教授、高橋学部長、石井会長、武田亜希子さん、内海理事長（左から／肩書きは当時）



武田さんの恩師である河崎良行名誉教授から祝辞が贈られました



制作者の武田亜希子さん



寄贈者である涓水会を代表して石井会長がご挨拶



総合科学部、涓水会の関係者で記念撮影を行いました

### たくさんのエキスパートの力が結集！

モニュメントの制作・設置にあたっては、本当にたくさんの専門家の方達にお世話になりました。制作担当の(株) 齋藤鉄工所さん、設置工事担当の東石材店さん、樹木整備の中原庭園サービスさん、写真家の幸田青滋さん—本当にありがとうございました。

2024年8月22日、関係者の力を結集して設置工事が完了。ところが、土台のコンクリートも乾かぬ間に台風が…！ 知恵を絞って、各パーツを「さらし」で巻き、更に古毛布で巻いて養生することに。心配した東石材店さんや写真家の幸田さんも応援にやってきてくださり、炎天下で延々と作業を行いました。おかげで台風も無傷で乗り切り、除幕を迎えることができました。



左から涓水会の大井事務局長、武田さん、東石材店のご夫婦、写真家の幸田さん。養生したモニュメントの前で

# 創立150周年記念事業



2024年10月19日——ついに創立150周年記念イベントの日がやってきました。  
記念式典、講演会、祝賀会など、総合科学部と涓水会が力を合わせて何年も前から準備してきた様々な催しが行われ、ホームカミングデーとして多くの卒業生の方にご参加いただきました。



## 記念式典

10月19日13時、徳島大学地域連携プラザ「けやきホール」に弦楽四重奏の艶やかなハーモニーが流れ出し、徳島大学総合科学部創立150周年の記念式典が始まりました。来賓を代表して文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長 井上睦子様、徳島県知事 後藤田正純様からご祝辞をいただいた後、150年の歴史を振り返る記念映像(佐原 理教授 作)が上映されました。過去からの電話で150年前にタイムリープするという構成、最新の技術を駆使した映像に、約150人の参列者は見入っていました。



▲会場では涓水会の記念グッズを販売。マカロンふせんが大人気でした

▲音楽研究室卒業生や徳大関係者で特別編成した「ISUIカルテット」の奏楽で幕開け。皆さん、徳島交響楽団の主要メンバーです

## 記念講演会

式典に続いて行われた記念講演会では、ミズノ株式会社執行役員 尾崎徹也氏、総合科学部卒業生で日本サーフィン連盟理事(当時)の武知実波氏、総合科学部 中塚健太郎准教授に、「スポーツと地域創生」をテーマに講演いただきました。

大学院でサーフィンツーリズムを用いた地域活性化について研究されていた武知氏は、小学校のプールを活用した子ども対象のサーフィン体験会など教育分野にも活動を広げられており、今後ますますの活躍に期待が高まります。人々の健康づくりのみならず、地域の魅力創生、社会地域につながるスポーツの可能性について考えさせられました。



▲武知氏は総合科学部の卒業生。2025年、日本サーフィン連盟副理事長に最年少で就任されました



▲質疑応答では河村学長も自身の海外での経験からコメントを



▲「スポーツと地域創生」をテーマに3人の講師からお話いただきました

## 150年のあゆみをふりかえる記念誌を編纂。 Web公開に先立って記念展も開催

総合科学部と涓水会が所蔵する古写真や資料を持ち寄り、師範学校～学芸学部～教育学部～総合科学部と150年にわたるあゆみを記念誌にまとめました。年表や組織変遷図はもちろん、校舎の配置の変遷、徳島大空襲前後の常三島校舎の様子など当時の情景が蘇る貴重な古写真を多数掲載。各時代の卒業生からのメッセージ、歴代学部長の寄稿もあり、見応え・読み応え十分です。また、2024年7月16日～10月27日、徳島大学新蔵キャンパスのガレリア新蔵にて記念展も開催しました。

※記念誌はWeb上で公開しています。QRコードからご覧ください。

- ④ ガレリア新蔵での記念展
- ⑤ 涓水会コーナーでは会報の創刊号なども展示



## 笑顔と歓声あふれた記念祝賀会。 「総合科学部クイズ」でボルテージは 最高潮に!

記念イベントの締めくくりは祝賀会。徳島大学生協食堂2階「Diningキララ」に来賓、大学関係者、涓水会関係者、卒業生や在校生が集い、和気あいあいと交流しました。祝宴では各世代の卒業生からスピーチをいただき、涓水会理事長・内海教授プロデュースによる「総合科学部クイズ」では豪華賞品を目指して会場一体となって大盛り上がり! 150年の歴史と、学内トリビアを網羅する出題に、終わってみれば1~3位を涓水会関係者が占めるという快挙となりました。



▲乾杯のご発声は石川榮作名誉教授。期待を裏切らないダジャレ満載のトーク



▲♪眉山に薫る青嵐〜 もと徳島大学リーダーークライスのメンバーが集まって「徳島大学の歌」を合唱。河村学長も合唱の輪に加わって



▲オードブル、サンドイッチ、スイーツなどがずらり。常三島学食のクオリティを再認識



▲祝賀会で同窓会!「昭和49年4月入学中学校教員養成課程同窓生」の皆さん。二次会も盛り上がったそうです



▲祝賀会には学部生の姿も。各世代の参加者にスピーチしていただきました

「1だ」「いや、3」と解答する参加者▶

▼内海千種教授による「総科クイズ」は、練りに練った出題。かなりの難問もありましたが、「へえー」「おおー!」と会場は大いに盛り上がりました



3位の石井会長には▶モニュメントTシャツが贈られました



Let's challenge!

## 総合科学部クイズ

祝賀会で出題された全13問から抜粋でご紹介。解答はP40を。

問1 1874(明治7)年に創設された総合科学部の前身となる学校は?

1. 徳島師範期成学校
2. 徳島尋常師範学校

問2 徳島師範学校には皇太子殿下が来校されたことがある。

1. ある
2. ない

問3 総合科学部1号館裏にあるユーカリの木が植樹されたのは学芸学部時代である。

1. 学芸学部時代
2. 他の時代

問4 学芸学部時代の体育大会で実際に行われていた種目は?

1. すだち収穫競争
2. 助任川水泳競争
3. タバコ吸い競争
4. ユーカリ登り競争

問5 同窓会である「涓水会」がたちあがったのはいつ?

1. 1908年 師範学校時代
2. 1945年 第2次世界大戦後
3. 1949年 徳島大学設置時
4. 1951年 師範学校廃止時

問6 教育学部時代の阿波おどり連の名前は?

1. ぎのうくん連
2. ちるど連

問7 総合科学部正門から続く榊並木について正しいものは?

1. 皇太子殿下(当時)が植樹
2. 徳島師範期成学校創立100周年の寄附
3. 徳島大学長(当時)が植樹
4. 総合科学部創立への寄附

問8 常三島キャンパス内に存在したスポーツ施設はどれ?

1. ゴルフコース
2. ボウリング場
3. 土俵
4. グラススキー



優勝者は同点1位で二人。なんと涓水会の塩川理事と大井事務局長でした。ドイツワインをゲットして喜びの記念撮影

# パターン認知の心理をめぐって

## 錯視的輪郭における線端の効果

イラスト：尾田理左氏

 はま だ じ ろう  
 徳島大学名誉教授 濱田 治良


図1には白あるいは黒背景の上に複数の十字形が規則的に配置されていて物理的にはあり得ないのですが、心理的にはその線端間に白(a)あるいは黒(b)の円盤および斜め方向の格子が浮き上がって見えます。このパターンは1941年にドイツのW.エーレンシュタイン氏により考案され、錯視的輪郭と錯視的円盤と呼ばれています。ここで左下のように円および4つの小円を描くと錯視的輪郭と円盤は消え、この現象の発生には線端が重要なのです。ところで左下の小円4つを右上の十字の交点に配置すると、同じ直径であるのに拘わらず右上の小円は小さくなり、その中心にキラメキが見えます。

図2で8本の線を放射状に並べて、心理学的実験により中央の円盤とその背景に対する見えの明るさをそれぞれ別々に測定しました。すると図2の目視でも確認できますが、円盤は黒線(a)では明るく、白線(b)では暗くなりました。一方、ここでは図示されていませんが線端の距離を遠ざけ錯視的円盤を大きくすると、黒線だけの場合(a)は錯視の強さは増すのですが、白線の場合(b)は逆に弱くなりました。一方、黒白線(c)と白黒線(d)における中央の円盤の明るさは(a)と(b)の間になりました。つまり(c)と(d)では4本ずつの白と黒線に引き起こされた円盤の明るさは相殺しあっています。そして(c)と(d)には(a)と(b)と同様に円形の輪郭が明らかに見えます。ある理論によると、脳内で円形輪郭が先に形成され、円盤の見えの明るさは後に決まるのです。また白線が垂直水平に配置された(d)の方が、黒線が垂直水平(c)より強い錯視を引き起こしていて、白・黒線分の方が違うと錯視的円盤の明るさが変わるのです。

図3において(a)では12本の黒線が放射線状に並べられ、かつ線端が正三角形の頂点に配置されています。すると明確な錯視的正三角形が現れます。しかし(b)のように12本の線分を15°回転させて線端が正三角形の辺に沿うが、頂点に位置づかないようにすると丸みを帯びたオムスピ形に見えます。

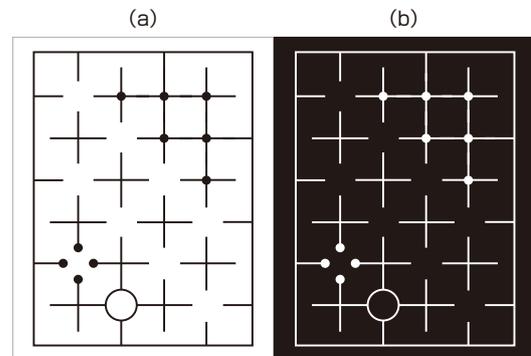


図1 錯視的円盤と格子

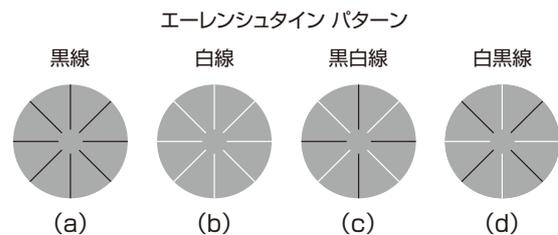


図2 黒・白線分が錯視的輪郭と円盤に及ぼす効果

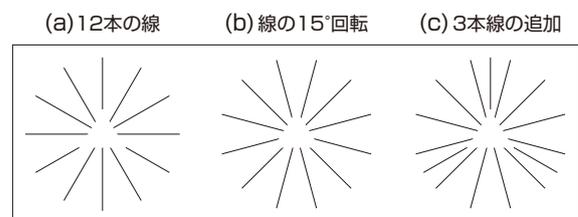


図3 錯視的正三角形における頂点の効果

そして(b)のパターンの頂点に3本の線分を追加すると(c)のように白い錯視的正三角形の明るさは格段に上昇します。このように錯視的正三角形の形成のためには線端を単に直線的に並べるだけでは不十分であり、線端を頂点に配置することが必要不可欠なのです。

以上のように私たちは客観的・物理的なパターンを、そのまま見ているのではなく脳内での人間特有な処理を経て主観的・心理的に見ているのです。

(昭和46年 教育学部小学校課程心理学教室卒)

# 徳島大学附属図書館所蔵の伊能図が 国重要文化財指定に！

徳島大学名誉教授 平井 松午



令和7年(2025)3月21日に、徳島大学附属図書館が所蔵する伊能図10鋪(枚)が地図を収納している桐箱2箱と合わせて、「伊能忠敬測量図 附 地図箱」として国の重要文化財に指定するよう文化庁文化審議会から文部科学大臣に答申され、9月26日に官報に告示されて正式決定しました。指定理由については文化庁HPで次のように説明されている(一部抜萃)。

「本件は、主に東日本を対象とした「沿海地図」3鋪(第1次～第4次測量、中図、縮尺1/216,000)、西日本を対象とした「大日本沿海図稿」4鋪(第5次～第7次測量、中図)、豊前国から豊後国北部までを画いた「豊前国沿海地図」3鋪(第7次測量、大図、縮尺1/36,000)の3種類からなる。徳島藩主蜂須賀家の求めに応じ忠敬が献上した地図群で、第7次測量の地図が完成した文化8年(1811)5月以降、それに近い時期の作製とみられる。第7次測量までの成果を網羅する日本全体の沿海地図として類例がなく、作製当初の折畳装の姿を伝えることも賞される。一方、この段階の沿海地図が経度調整や地図投影法の課題を残したことを示し、「沿海図」から「沿海輿地図」へと転換する過程を示す地図群として測量史、地図史上に重要である。」

「伊能図」とは、伊能忠敬(1745～1818)が主導した10次17年間に及ぶ全国測量にもとづいて作製された初の実測日本図のことである。忠敬没後の文政4年(1821)に最終版の伊能図となる「大日本沿海輿地全図」を幕府天文方の高橋景保らが完成したが、幕府上呈図は明治6年(1873)に焼失している。ただし、忠敬は測量成果図を幕府高官や大名家にもたびたび献上していて、これらの献上図はいずれも美しい地図仕立てを呈している。徳島藩主蜂須賀家旧

蔵の徳大伊能図もそうした大名家本伊能図で、未成本ではあるが、忠敬存命中に徳島藩主に贈られた優品である。

附属図書館所蔵の古地図・絵図群は約200点を数えるが、このうち伊能図10鋪をはじめ、阿波・淡路国絵図、諸国の国絵図・国図、地球図・世界図などは、蜂須賀家が旧蔵していたものである。阿波・淡路国絵図など162点は、昭和26年(1951)6月・8月に当時の学芸学部図書分館が購入し「備品」として登録している。伊能図など14点は、「自新会」という学芸学部の後援団体を介して昭和28年1月に図書分館に寄贈され、当時の受入台帳によれば「使用位置」は「地理学」教室となっている。これは、当時の学芸学部図書分館長が地理学教員であったことも関係しているのかもしれない。

蜂須賀家が所蔵していたこれらの古地図・絵図類は、もともと徳島師範学校の南西隅に隣接していた同家の常三島別邸に保管されていたとみられる。昭和20年7月4日の徳島空襲によって師範学校や蜂須賀家別邸も焼失したが、別邸の土蔵に保管されていた古地図・絵図類は焼失を免れたようである。今回、総合科学部の元地理学教員として徳大伊能図の国重要文化財指定に関わることができたことに、歴史の巡り合わせを感じている。

なお、附属図書館が所蔵する「近世古地図・絵図コレクション」および伊能図については、附属図書館HP「貴重資料」に掲載されている「貴重資料高精細デジタルアーカイブ」および「伊能図学習システム」という2つのサイトでネット公開されている。後者の「伊能図学習システム」では、800dpiの超高精細画像データで、伊能図を作製するために測量ルート上に開けられた夥しい数の針穴(測点)も確認できる。ぜひ、徳大伊能図の美しい地図仕立てを堪能していただきたい。



9月6日(土)開催の国重要文化財指定記念シンポジウム  
「伊能図を未来へー歴史資料を学ぶ・守る・活かす」(附属図書館主催)の様子

## 国重要文化財「伊能忠敬測量図 附 地図箱」 (3組10鋪+2合)

① 中図 縮尺1/21,6000  
「沿海地図」3鋪／地図箱 1合  
第1～4次測量成果図(日本東半部)

「下」蝦夷  
縦185.5×  
横217.4cm

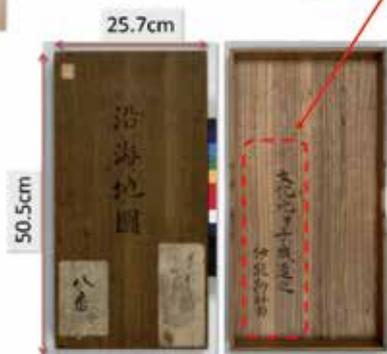


「中」  
奥州  
縦217.1×  
横186.8cm



「上」関東・東海・北陸  
縦185.0×横247.0cm

箱裏書き  
「文化元甲子歳造之  
伊能勘解由」





同シンポジウムのパネルディスカッションの様子

② 中図 縮尺1/21,6000  
 「大日本沿海図稿」4鋪／地図箱1合  
 第5～7次測量成果図(日本西半部)

壺 五畿東海  
 縦129.2×横172.3cm

弐 山陰山陽  
 縦135.5×  
 横172.2cm



肆 西海  
 縦191.0×  
 横170.6cm

参 南海  
 縦114.0×  
 横151.5cm



(長門)  
 関門海峡

③ 大図 縮尺1/36,000  
 「豊前国沿海地図」3鋪  
 第5・7次測量成果図

(豊前)



(豊後)



大分

連載

⑦

# 総科を

～総合科学部の

# たずねて

“いま”をご紹介します～

## 大阪・関西万博での経験と博士課程で取り組む「AI対話パートナー」研究

徳島大学大学院創成科学研究科 博士後期課程1年 おえ よしき 麻植 義喜



私は今年度から、臨床心理学におけるAI活用をテーマに研究を進めるため、徳島大学大学院創成科学研究科の博士後期課程に進学しました。ところが、徳島大学大学院への進学は、私に思いがけない経験をもたらしました。2025年度の大阪・関西万博にて、これまで一度も経験したことのないワタ芸（サイリウムを使用したダンスパフォーマンス）を、大勢の観客の前で披露したのです。というのも、4月28日と9月29日に徳島大学総合科学部の教授陣を中心に「徳島大学と大阪府阪南市のコラボレーション」として万博内で公演が行われ、私も発表者として登

壇する機会をいただいたからです。

公演では、関西ヘルスケアパビリオンのリボーンステージにて、大阪府阪南市の魅力や行政の取り組み、阪南市と徳島大学、株式会社伊藤園の連携プロジェクトについて、発表担当者が交代で紹介を行いました。その中で私は、阪南市行政による生成AI活用の可能性として、阪南市商工会の公認マスコットキャラクターである「緑川さくら」や「波有手美海」が、AIと連携して人々の阪南市に関する疑問に回答するというデモンストレーションを担当しました。



リボーンステージの全体像と公演中の様子



阪南市のAI活用の取り組みを紹介している私(向かって左側)



「AI緑川さくら」と会話している様子



「AI波有手美海」と会話している様子

公演の最後には阪南市の名所、山中溪「千本桜」の魅力を伝えるため、楽曲「千本桜」と共に大学教員と院生が一体となってヲタ芸を披露しました。このパフォーマンスは、私の所属する臨床心理情報学研究室が得意としている「光の演出」を組み合わせたものとなっており、唐突に始まったヲタ芸と多彩な光演出が、リボーンステージを訪れた多くの来場者に驚きと感動をもたらしたことと思います。ス

テージ終了後に鑑賞者27名を対象に行ったアンケートでは、「阪南市に興味を持った」という項目に「とても当てはまる」から「当てはまらない」の4段階で回答を求めたところ、「とても当てはまる」と回答した人が84.6%、「当てはまる」と回答した人が15.4%で、鑑賞した全ての人が阪南市への関心を深める結果となりました。



3Dファンで投影した緑川さくらと一緒にヲタ芸を打つ様子



プロジェクターで桜吹雪を投影しながらヲタ芸を打つ様子

ここからは、少し私の研究について説明させていただきます。実は、公演内の「AI緑川さくら」や「AI波有手美海」は、私が修士論文研究で使用したアプリケーションを、公演向けにカスタマイズして作成したものです。私の研究では、「生成AIを搭載して音声による自然なやり取りが可能な対話パートナー」の開発を進めており、この「AI対話パートナー」を用いることで、抑うつや孤独感の軽減など、メンタルヘルス向上を目指しています。「AI対話パートナー」のメンタルヘルスケア活用として、例えばAIをセラピストとして悩み相談をする方法もあると思います。しかし、深刻な相談の相手としてAIを使用するには、まだ安全面での懸念があります。そこで私は、少し違った観点からの活用を検討しました。私が修士論文で着目したのは、「キャピタライゼーション」という心理学の概念です。

キャピタライゼーションとは、楽しかったことや頑張った経験など、自分にとってポジティブな出来

事を他者と共有することであり、話者のポジティブ気分や自尊心の増加と関連することが示されています。修士論文では、キャピタライゼーションの相手を、「AI対話パートナー」とし、AIとのポジティブな対話が、ネガティブ気分や抑うつ、孤独感等の改善につながるのかを検証しています。まだ解析は継続中ですが、修士論文の段階では、AIとのポジティブ対話によってネガティブ気分が低減する可能性が示されました。また、AIと「目標を達成すること」に関連する内容を話すことが、ネガティブ気分低減に効果的に働く可能性も示唆されました。

「AI対話パートナー」の活用には、行政やメンタルヘルスケアなど多種多様な道が開かれています。現在私は博士後期課程で、この対話システムを更に発展させることを目指して、日々研究に取り組んでいます。今後も最新技術の活用で、心の健康に寄り添い、人々の生活を豊かにする新しい支援の方法を探求していきたいと考えています。

# 私の職場

総合科学部になって早や40年近く。  
国内外を問わず多方面の職場で活躍されている  
渇水会々員の皆様に、職場の状況や特色、体験談など、  
その職場ならではのエピソードを語っていただきました。

地域おこし  
協力隊

## 「地域おこし協力隊」に結びついた 大学時代の学び

なか しま けん た  
中 島 健 太



私は今、熊本県玉名市の地域おこし協力隊として活動している。熊本県民でもなければ馴染みのないまちだと思うが、2019年にNHK大河ドラマ「いだてん」の主人公だった金栗四三のゆかりの地といえピンとくる人もいるかもしれない。

玉名市は平成17年に旧4市町が合併して現在の玉名市に至っているのだが、令和4年に旧天水町（以下、天水地区）が国の一部過疎指定を受けている。この天水地区は「みかんと草枕の里」と称され、全国でも有数のみかんどころであり、そして夏目漱石の「草枕」の舞台としても知られる。

私の地域おこし協力隊としてのミッションは、この「天水地区の活性化」である。着任当時の私の想いはというと「漠然として何をしたらいいのかかわからない」というものだった。とはいえ、地域おこし協力隊として来たからには任期3年で成果をあげなければいけない。まさに暗中模索という感じだった

が、市の担当者や関係者とも打ち合わせを重ね、「天水みかん産業の活性化」と「若い世代の関係人口創出」をテーマに活動を始めた。

前述したように、天水地区の主産業は柑橘栽培であり、この天水みかん産業が盛り上がるのが天水地区の活性化には欠かせないと考えた。関係人口というのは、簡単にいうと「住んではないがその地域に関わる人々」である。人口が減少し、産業や地域コミュニティ、行事の担い手が不足する。それを関係人口で補うというわけである。

具体的に何をしているかという、熊本学園大学のゼミと連携してみかんの商品開発や販売会をしたり、熊本県立大学の「地域づくりのキーパーソン」育成を目指す「もやいすと」プログラムの天水地区でのフィールドワークのコーディネートをしたりしている。詳細は書ききれないので割愛するが、大学側の「学生たちの実践的な学び」というニーズと、地域側の「若い世代の知恵や活動」というニーズを



自宅近く草枕温泉からの景色



秋冬はあたり一面がみかん山に



熊本県立大学×地元中学校合同プログラムにて

結びつけるというものだ。その他、農産物直売所でのイベントの開催や地域の祭りでの司会業など、とにかく天水地区を盛り上げるべくがむしゃらに活動している。

そもそも私がなぜ玉名市の地域おこし協力隊をしているかという、大学時代の学びが関係している。

私の故郷である兵庫県猪名川町は、正直これといった特徴のない田舎町だ。私自身がそうだったように、大学進学や就職を機に多くの若者が町外へ出ていく。ただ、「だから社会創生学科、地域創生コースを選んだ」ということはない。当時の私は目的意識もなく、なんとなく生きていたと思う。そんな中で、4年生になり高橋研究室で地域文化を研究対象にしたことが、私の「地域」というものに対する関心を高めたに違いない。

結局、私は大学を卒業してコンビニ業界に就職した。直営店の店長職を経てスーパーバイザーとして

香川県の営業所に配属され、担当店の店舗経営支援に従事した。時には担当店のオーナーや店長と衝突することもあったが、加盟店とともに二人三脚で仕事することにやりがいを感じていた。

そんな折、私はふと転職を決意した。ここまで「なんとなく」で選択してきたが、この頃の私は「地方創生に携わる仕事がしたい」という想いが明確にあった。2020年のコロナ禍による地方移住の流れや、30歳目前というタイミングもあったと思うが、結果的に地域創生コースや高橋研究室で学んだことが時を経て明確な目的意識を形成していた。そして紆余曲折あり、ご縁あって現在は玉名市の地域おこし協力隊として活動している。

一方、正直なところ「なぜ玉名市か?」という、明確な理由はない。転職活動の成り行きといった感じである。それでも、着任以来公私ともにこの地域で過ごす中で、地域への愛着と「玉名、天水のために」という想いは強くなってきている。これまでの人生もそうだったように、きっかけは何でもいい。結果として、この地域に着任をして地域住民とともに天水地区の活性化に向けて活動している日々はとても充実しているし、きっとこの地域で今経験していることが次のステップに不可欠な経験値になるだろう。

(平成28年 総合科学部社会創生学科地域創生コース卒)



今年1月母校訪問時、高橋先生と矢部先生と

大学生フィールドワークに対応



## 神経発達症児者への支援と遠隔技術を活用した新しい支援のかたち

徳島大学 総合科学部 心身健康コース 准教授 えのもと たくや 榎本 拓哉

涓水会会員の皆様、こんにちは。私は総合科学部で発達臨床心理学を専門としております榎本拓哉と申します。このたび、第15回総合科学優秀賞の栄誉を賜り、大変光栄に存じます。研究を支えてくださった先生方や同僚、学生、そして研究にご協力いただいた保護者・支援者の皆様に、心より感謝申し上げます。今回「研究最前線」に執筆する機会をいただきましたので、応用行動分析学という学問を主軸としたこれまでの研究の歩みと今後の展望についてご紹介いたします。

## ①保護者・支援者とともに歩む行動支援

私の研究は、神経発達症（Neurodevelopmental Disorder、以下ND）の子どもとその保護者・支援者を対象にしています。ND児は、日常生活や学校生活でさまざまな困難を抱えることが多く、その支援には保護者や教員など周囲の大人の協力が欠かせません。私はこれまで、保護者や支援者と協働して行う「行動的支援」の研究を続けてきました。たとえば、保護者の状況や価値観に合った支援（文脈的適合性：Contextual Fit）を行うことで、子どもの行動問題が改善するだけでなく、保護者自身の育児ストレスも軽減されることを示しました。また、行動的支援は保護者だけでなく、支援に関わるスタッフのスキル向上にもつながり、重度の知的障害を持つ子どもにも適用できることが明らかになっています。さらに、学校現場では、行動の機能分析やカンファレンスの進め方など専門的なスキルを維持するために「行動的コンサルテーション」という手法を活用し、その効果を実証してきました。

## ②Video-Feedbackを用いた行動支援

もうひとつの柱は、映像を活用した「Video-Feedback」の研究です。これは、子どもの行動を撮影し、その映像を振り返りながら支援者と一緒に学ぶ方法です。従来の直接的な教示では学習が難しかった子どもも、映像を通すことで早期にスキルを身につけることができることがわかりました。具体的には、重度の知的発達症を持つ子どもでも、映像の提示方法や意思表示の手段を工夫することで適切な行動の形成が可能であることを明らかにしました。また、複雑で強固な問題行動に対しても、子どもが心理的な負担を感じずに修正できることが示されています。さらに、小グループでのVideo-Feedbackを行うことで、子ども同士が学び合い、適切な会話スキルを身につける効果も確認されました。これらの研究成果を整理し、Video-Feedbackがどのように行動を変えていくのか、その仕組みをモデル化しています。

## ③Tele-Healthによる遠隔支援

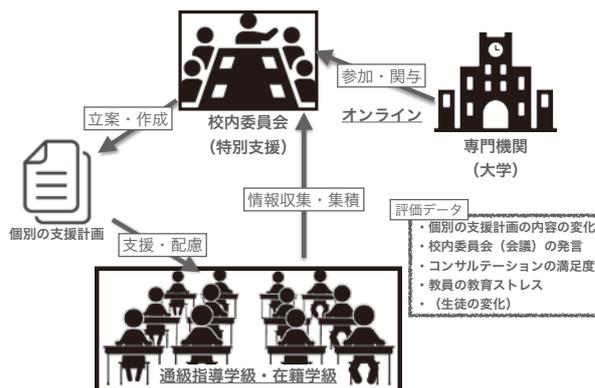
近年は、遠隔支援（Tele-Health）にも力を入れています。保護者や保育士、学校の先生に対してオンラインで相談や指導を行う仕組みを開発し、その効果を検証しました。その結果、遠隔支援でも対面と同等に支援技術を習得でき、子どもの適応行動や発達促進にもつながることがわかりました。一方で、対面支援と比べると、保護者や支援者のストレス低減には十分な効果が見られないなど、課題も浮かび上がっています。この研究は、科学研究費助成事業（研究課題番号：22K02790『幼稚園を基盤とした遠隔技術とVideo-Feedbackによる包括的保護者支援』）の支援を受けて実施しており、今後はVideo-Feedbackとメンタルヘルス支援の双方を遠隔技術

で提供することで、より包括的で質の高い支援を遠方まで波及させるパッケージの社会実装を目指しています。

### おわりに

NDのある子どもやその家族にとって、日々の生活の中での小さな困難が積み重なることは少なくありません。私の研究は、その困難を和らげ、子どもと保護者、そして支援者がより安心して暮らせる社会づくりに貢献することを目指しています。今後も、大学や地域と協働しながら、現場に役立つ支援方法を探究してまいります。

### Tele-Healthによる行動コンサルテーション



# 常三島 今昔 5

## モニュメント除幕式



写真は、平成6年(1994)5月の徳島大学創立120周年記念モニュメント除幕式のもよう。「調和と発展」と題された河崎良行教授(現 名誉教授)作のモニュメントは、渭水会からの寄贈で、螺旋を描き天へと伸びてゆく2つのムーブメントが印象的だ。

渭水会では周年の節目毎に、記念史の発行、講演会の開催、芸術作品の寄贈など独自の記念事業を行っており、昨年2024年にも総合科学部創立150周年記念のモニュメントを設置・寄贈した。キャンパスのあちこちに佇む教授や卒業生制作の芸術作品、この機会にぜひ目を向けてほしい。

# 輝く 新星

## 第11回 渭水会 会長賞

平成26年度に創設された「渭水会会長賞」。これは、研究及び学生としての活動全般において優れた学生に対して贈られるものです。第4回からは、対象を院生にも広げ、学生3名・院生1名に贈呈しています。

令和7年3月25日(火)、総合科学部1号館第1会議室において表彰式が行われました。

令和6年度(第11回)渭水会会長賞の受賞者は  
西條真結乃さん(大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻)  
秋月さくらさん(総合科学部 国際教養コース)  
後藤 亮さん(総合科学部 公共政策コース)  
加藤 胡優さん(総合科学部 公共政策コース)の4人です。



左から、内海理事、西條さん、後藤さん、加藤さん、秋月さん、石井会長

## 視野を広げる学び、未来へつながる研究



さいじょう まゆの  
西條 真結乃

学部4年間、そして修士課程2年間の大学生活を通して、私の世界は大きく広がりました。

私はもともと地理歴史科の高校教員を目指していましたが、地理にはどうしても苦手意識がありました。そんな私が地理に興味を持つようになったきっかけは、歴史地理学の講義で出会ったGIS(地理情報システム)です。GISを基盤に、複数分野のデータを掛け合わせることで、傾向や要因が視覚的に浮かび上がる点に魅力を感じ、地理の面白さに気づくことができました。位置や分布を手がかりに思考を深めていくプロセスは、謎解きのような楽しさがありました。

この魅力を高校生にも伝えたいという思いから、修士課程へ進学し、GISの利用を拡大するための教材開発に取り組みました。ICT環境が整っていない教育現場や、難しい操作に抵抗感を持つ教員・生徒にもGISを活用してもらえよう、実物のカードを用いた「GISカード」を作成しました。PCによるデ



GISカードを体験する生徒

ジタルな実践型授業が主流と思われていたGIS教育ですが、ゲーム感覚で楽しく学べるアナログ教材という新たなアプローチ

を提示することで、GIS教育の可能性を広げることができたと感じています。

こうした研究を進めるなかで、主指導・副指導教員、アドバイザー教員をはじめとして、他大学や調査対象の中学校・高校など、多くの先生方にご指導いただきました。先達からの助言は、研究のみならず、私自身の価値観にも広がりや深み、そして新たな可能性を与えてくださいました。

また、所属していた地域創成専攻には、様々な国を出身とする同級生が在籍していました。彼らが日本、そして徳島を対象に研究している姿に触れることで、自分の世界から一歩引いた視点で見つめることの重要性を学ぶことができました。

入学前の私は、自身の生まれ育った徳島に誇りを持ち、大学卒業後も徳島で働くことを疑わない、いわば「地元志向」の高校生でした。しかし、総合科学部・創成科学研究科での学びは、そんな私の視野を大きく広げてくれました。私は現在徳島を離れ、GIS業界の技術職として最新の技術を学びながら働いています。6年前に入学した当時には想像もしていなかったような日々を送っており、大学生活で出会った方々との交流に刺激を受け、視野が広がったことを実感しています。

今後とも、業務を通じて得た知識や技術を活かしながら、「GISカード」のさらなる展開やGIS教育の

発展に繋げられるよう、日々成長を続けたいと考えています。そして、いつか徳島大学に戻って研究を深めたり、外の世界で培ったスキルを地元に戻元させたりできればと考えています。

私の大学生活は、自分の世界を見つめ直し、幅広い視野を得ることができる、かけがえのない経験の連続でした。これからも、その経験を糧に一步一步着実に歩みを進めてまいります。



徳島の豊かな自然

最後にはなりませんが、この度は涓水会会長賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。熱心にご指導くださった



お世話になった空間情報科学研究所の皆さん

先生方、辛いときに支えてくれた家族や空間情報科学研究所の皆様、心より感謝申し上げます。そして、徳島大学の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

(令和7年 大学院創成科学研究科 地域創成専攻 修了)

## 自分らしく学び、挑戦できた4年間

このたび涓水会会長賞という名誉のある賞をいただき、大変光栄に思っております。同時に徳島大学での生活を振り返る機会をいただけたことで、この4年間がいかに充実したものであったかを改めて実感しています。徳島大学での日々を思い返すと、私にとっての大学生活は「自由に学び、挑戦できた時間」であり、その環境を与えてくださった大学と先生方に心より感謝しています。

入学のきっかけとなったのは「留学をしたい」という思いでした。世界に出て新しい価値観に触れたい、広い視野を持ちたい。その願いを胸に徳島大学



コリドーメイト達とハロウィンパーティー

あきづき  
秋月 さくら



に進学しました。当時は新型コロナウイルスの影響がまだ残っており、海外留学には多くの不安が伴いました。それでも大学や先生方は私の意思を尊重し、背中を押してくださいました。また本来は2年次から行くはずの交換留学を、1年次の終わりから挑戦することを許可してくださいました。このように本人のしたいことや意思を尊重し、適切な場を提供してくれる大学の在り方は私が自由に成長できる、とても良い環境でした。そしてこの経験が私の大学生活を大きく形作りました。



大好きな友人に会いに  
ポルトガルへ

私はスウェーデンのルンド大学に1年間留学しました。当時、徳島大学から留学に行く学生は私1人で、19歳の私は大きな期待と不安を抱えながら1人で飛行機に乗り込みました。渡航者が少なかった

ため、機内はがらんとしていて、通路を歩き回ったり3列シートを使って横になったりできるほどで、今でも鮮明に覚えています。現地に着いてからも、右も左もわからない中で英語を必死に聞き取りながらPCR検査を受けたり、生活基盤を整えたりと、挑戦の連続でした。振り返ると、この「異常時」の留学経験こそが、自ら切り開く力や柔軟に対応する力を培ってくれたと思います。

ルンドはとても美しい街で、街全体がキャンパスのように学生の活気に満ちていました。そこで出会った多くの仲間と過ごす中で、語学力だけではなく、文化や価値観の違いを受け入れ、互いを尊重しながら学び合う姿勢を学びました。19歳、20歳という多感な時期に、世界中から集まった仲間と出会い、一緒に生活し、学び、楽しめたことは私の人生において貴重な経験でした。異なるバックグラウンドや文化を持つ人々と過ごした日々は、新しい世界を知ると同時に自分の世界を広げ、今後も大切にしたい価値観を育んでくれました。

帰国後も大学は、私の「やりたい」という気持ちを尊重してくれました。興味のある分野を自由に学び、自分らしい学び方を探求することができました。

そのおかげで、夢であった分野での就職も叶い、グローバルに働きながら好きな分野に携わるという2つの目標を達成することができました。



4年間支えてくれた愛犬たち

もし他の大学に進学していたら、これほど自由度の高い環境には出会えなかったと思います。徳島大学は私にとって、自分の可能性を広げ、未来へとつなげることのできる場所でした。

最後になりましたが、この4年間を支えてくださった先生方や職員の皆様、そして友人に心より感謝申し上げます。ご指導をいただいた依岡隆児教授をはじめ、皆様のおかげでこのような名誉ある賞を頂くことができました。また、常に私を信じ、応援してくれた家族にも深く感謝しています。徳島大学で過ごした四年間の学びと経験を糧に、これからは社会人として新たな挑戦を続けていきたいと思えます。

(令和7年 総合科学部社会総合科学科 国際教養コース卒)

## ★ 学び意見を述べることの大切さ



ごとう りょう  
後藤 亮

この度は私たちの取り組んだ活動であるTYME (Tokushima Youth Meeting for Elections : 選挙の



TYMEメンバーの集合写真

ための徳島若者会議) について、渭水会会長賞という形で評価していただき、誠にありがとうございます。学生を中心とする若者の投票行動の促進と投票率の増加という、私たちがこの活動において掲げる最大の目標に向けてまた一歩前進したと感じております。

私は徳島大学への入学当時、選挙について考えることは重要であるという考えがありつつも、同時にどこか遠い世界のような、自身とは関係の薄いものとして捉えていました。若者とりわけ20代の投票率が低かろうと、そのようなことは当たり前なのだろうと当然のように考えていました。しかし、徳島大学での講義や活動を通して自身の社会への視野が

広がるとともに、私たちの生活の至る所で、政治によって決定されたことが存在していることを理解するようになりました。特に転機となった出来事はやはり、大学3年生から加入した、総合科学部の国際政治学ゼミナール内での講義や議論です。これまでの大学生活では、他者と政治について話すことはおろか新型コロナウイルスの影響により、他者とコミュニケーションをとることさえ困難な状況でした。そのため政治についても、自身の考えを深めることばかりで、他者と意見を交わすことについては不十分な状況が続いていたのです。このことから、一つの様々な政治的課題について他者の意見を聞き議論することをより新鮮に感じ、同時に、一方的に他者の意見を聞くだけにとどまらず、それらの意見についての議論も行うことの必要性を理解しました。

そのような意見を持ったからこそ、私はこの「TYME」に参加し、多くの人と意見を交わすなかで、政治と選挙に関する更なる関心を深めることとなりました。なかでも2024年に「TYME」が主催した衆議院議員選挙立候補者公開討論会は、学生が国政選挙の立候補者の意見に間近で触れることのできる貴重な機会となりました。「TYME」においては発足以来、様々な選挙において学生に投票を呼び掛けており、主に期日前投票所前でのビラ配りなどを行ってきました。公開討論会も主な活動のひとつであり、これまで様々な選挙が行われる度に開催してきました。メンバー内でも「過去の活動を受け継ぎ、多くの若者が選挙に触れるきっかけとなろう」といった機運が自然に高まってきました。そうして討論会への準備を進めていくなかで、突発的に行われた選挙であることも関係し、様々な困難に直面しました。特に日程調整に関しては、少しでも多くの学生に足を運んでもらえるよう立候補者の方々と何度も話し合いを重ね、忙しい選挙活動の合間を縫って出席していただきました。その際候補者の方々からは、学生が政治に参加するきっかけを作りたいといった熱意をとて強く感じる事ができ、政治が学生へ歩み寄っている光景を目の当たりにしました。結果として多くの学生に加え、一般の方々や新聞などの報道機関にも認知していただき、若者が選挙に触れるきっかけを作ることができたと考えています。

そして現在においても「TYME」は活動を続けており、2025年の参議院議員選挙の際に行われた

公開討論会では、私も社会人ながら参加させていただきましたが、私たちの討論会よりもさらに規模の大きいものとなり、後輩たちの活動の積極性に衝撃を受けるとともに、若者の投票の輪が確実に広がりつつあることを実感



公開討論会に向けた立看板作成の様子

する良い機会となりました。同時に、自身が興味を持ったことについて活発な活動を行うことができる徳島大学で学ぶことができた経験は、かけがえのないものであると考えています。これからも若者が政治を考える場所として、「TYME」と徳島大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

(令和7年 総合科学部社会総合科学科 公共政策コース卒)

### 徳島大学総合科学部涓水会会長賞表彰要項

(令和7年5月31日改訂)

#### (目的)

第1条 研究活動及び学生としての活動全般について優れた者を表彰する。

#### (表彰人数)

第2条 学部生3名、博士前期課程(修士課程)院生2名とする。ただし、博士後期課程院生においても特に優秀と認められた場合は、1名を表彰人数に追加することができる。

#### (表彰者の選考)

第3条 学部生は4年次前期終了、大学院生は修了・単位修得退学時の前期終了までの研究活動・社会活動・成績等に基づいて行う。

- 第4条
- 1 表彰は、次の基準に該当する者について行う。
    - (1)研究活動・社会活動等で優れた業績を有する者
    - (2)GPA上位者
  - 2 博士後期課程院生においては、特に卓越した業績を有する者とする。

#### (表彰の決定)

第5条 表彰の決定は、学部長が招集する選考委員会で協議し、涓水会会長に推薦し、決定する。

#### (表彰の時期等)

第6条 表彰は、学部生においては4年次後期、大学院生においては修了・単位修得退学時の後期に涓水会会長が行う。副賞として1名につき5万円を給する。

#### (要項の改廃)

第7条 この要項の改廃は、総会の議によって行うものとする。

#### 附 記

- (1)平成29年5月27日(土)の総会で決定し、平成29年度より実施する。
- (2)令和2年5月30日(土)の理事会で決定し、令和2年度より実施する。
- (3)令和5年6月3日(土)の総会で決定し、令和5年度より実施する。
- (4)令和7年5月31日(土)の総会で決定し、令和7年度より実施する。



徳島大学名誉教授、そして徳島県の合唱指導の第一人者として合唱文化の普及発展に寄与した吉森章夫先生が2025年3月5日ご逝去され、関係者は深い悲しみに包まれました。渭水会にとっても、設立に尽力され、役員としてずっと運営に携わってくださった大きな大きな存在でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 吉森章夫先生を偲んで

徳島大学音楽研究室卒業生代表 さいとう ひろみつ 齋藤 裕瑞

3月7日、何気なく目にした新聞のお悔み欄に吉森章夫先生のお名前を見て我が目を疑いました。まだまだお元気で楽しい演奏やお話を聞かせていただけるものと思っていましたのに。関係者のお話では、3月5日の朝、ご自宅で倒れられてそのまま帰らぬ人となってしまわれたとのこと。

合唱指導に情熱を燃やし続けられた先生の生き様は、私たちに多くの教訓を残してくれました。

先生との出会いは、64年前、私が大学3年生の春でした。若々しい声楽ご専門の先生にご指導いただけることに学生みんなが胸躍らせました。

何事にも積極的に取り組まれる先生は、翌年、音楽教室の定期演奏会をやるうと持ちかけてくださいました。早速、準備を整え、「徳島ホール」で第1回音楽研究室定期演奏会を開催することが出来ました。大勢のお客様の前で初めて独唱させていただいた経験は、私のその後の大きな励みとなりました。

先生は活動の場を学外にも向けられ、合唱活動の輪を広げ深められました。着任4年後には徳島合唱団を創立され、全国に通じる合唱団に育てられました。

また、学校教育での合唱活動向上のため、NHK全国学校音楽コンクール課題曲の合唱講習会で長年にわたり講師を勤めてくださいました。講習会に参加された先生方も児童・生徒も、合唱の合唱たるを共に学ぶ、またとない機会となりました。コンクールに参加する学校も徐々に増え、レベルも向上し、念願だった四国の壁を乗り越え、全国大会に歩を進めて金賞など様々な賞を

受賞する小学校や中学校が生まれました。これは直接ご指導に当たられた当該校の先生方のご努力によるところが大きいとは思いますが、それを長年にわたり支えられた吉森先生のご指導なくては成しえなかった事と思います。

また、広く合唱を楽しみたい人たちに呼びかけ、徳島大学大学開放実践センターの講座「楽しいコーラス」を開設し、合唱の裾野を広げることに尽力されました。この講座から女声合唱団「櫻」と、男声合唱団「あわコラリアーズ」が生まれ、私も「あわコラリアーズ」の一員として楽しい日々を過ごさせていただきました。2つの合唱団によるジョイント・コンサートは立ち見が出るほどのお客様で賑わいました。ご来場の方々は、私たちの合唱を楽しんでいただくとともに、演奏の合間に語られる先生のユーモアに満ちたトークにも心ませたものでした。だが、演奏会前日のご指導は時に長時間に及びました。先生は疲れも見せず細かいところまで、納得のいくまでご指導くださいました。

厳しく温かいご指導のもと、多くの歌う機会をお与え下さいましたが、未だ十分にお応えできずお別れしなければならないことが無念であります。しかし、先生の教えを受けた指導者たちが、志を継いで徳島の合唱を発展させていくてくれることと思います。どうぞ彼等の活躍を温かく見守ってください。

吉森先生、本当に長い間ご苦勞様でした。先生のご冥福を心よりお祈りしお別れの言葉といたします。

(昭和38年 学芸学部中学校課程音楽研究室卒)



9月28日に開催された「お別れの会」で  
弔辞を捧げる齋藤さん



徳島合唱団による追悼演奏に聞き入る参列者。  
教え子や合唱関係者が別れを惜しんだ

## 徳島市退職校長会講演会

会長 いし かわ かず ゆき  
石 川 和 幸

徳島市退職校長会は、会員の研修と親睦を図り合わせて本市の教育振興に寄与することを目的として活動を続けてきましたが、令和4年に解散となりました。しかし解散と同時に新たな陣容で再出発をし、本年度の会員は86名に増加しました。2回目である本年度の総会は29名が出席し、総会・講演会とともに、叙勲受章者祝賀会・懇親会も行い会員同士の親交を深める良い機会となりました。

さて、本講演会は総会に併せて実施しており、今回は私たち高齢者にとって関心の高い肺炎予防について講演をいただきました。

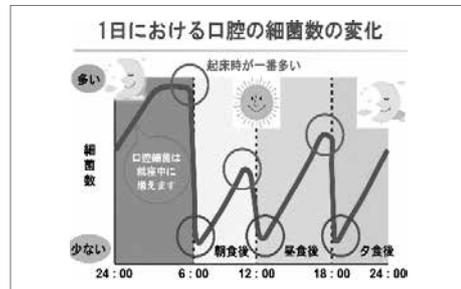
- 1 期 日 令和6年5月12日(日)
- 2 会 場 阿波観光ホテル
- 3 演 題 「これだけは知っておきたい肺炎の話」
- 4 講 師 徳島大学 大学院医歯薬学研究部  
口腔微生物学分野 教授  
博士(工学) 住友 倫子 氏

### 5 講演概要

◎カゼと肺炎は、症状が似ているが、カゼは上気道の感染症、肺炎は肺の感染症。肺は呼吸の場であるため、肺炎は命にかかわるほど重症化する場合がある。徳島県における肺炎の死亡率は高い。

### ◎高齢者が肺炎を防ぐ方法

- (1) 成人用肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンの併用接種で発症と重症化を減らす。
- (2) 細菌やウイルスの肺への侵入を防ぐ感染予防には口腔ケアが重要。
- (3) 誤嚥性肺炎を予防する日常習慣8項目
  - ① テレビを見ながらの食事をしない
  - ② 食後90分は横にならない
    - \*左向きに寝る方が誤嚥は起こりにくい
  - ③ 1日4回の歯磨き習慣
    - 1) 朝起きた時
    - 2) 朝食後
    - 3) 昼食後



### 4) 夕食後(寝る前)

\*朝起きた時の細菌数が一番多い

- ④ 食べ物に「とろみ」をつけ食べやすく
- ⑤ 加湿器の活用
- ⑥ うがい・手洗い・マスクの着用
- ⑦ 「くっぼちゃんの健口体操」(徳大歯学部)

\*嚙む力や飲み込む力を維持し高める

- ⑧ 定期的な歯科医院での検診と口腔ケア

\*定期検診を受けている人とそうでない人は、肺炎の発症に有意差がある



以上のような内容の事柄を、イラストが入った分かりやすい資料を使って丁寧に説明していただき、肺炎予防への意識を高めていただきました。とても分かりやすかったと参加者に大変好評でした。



今後、私たちがより健康な生活を送るために生かしていきたいと考えております。

(昭和41年 学芸学部小学校課程数学教室卒)

# 総科ニュース

※この総科ニュースについての詳細は、徳島大学総合科学部総務係にお尋ねください。  
徳島大学総合科学部総務係 TEL：088-656-7103 FAX：088-656-7298  
E-mail：sksoumuc@tokushima-u.ac.jp

## 【総合科学部の1年】

令和6年(2024)7月～令和7年(2025)6月

### \*令和6年7月20日(土) 総合科学部振興会評議員会・総会の開催

令和6年度総合科学部振興会(在学生の保護者会)評議員会・総会を総合科学部1号館で開催。就職ガイダンス、保護者懇談会もあわせて行いました。

### \*令和6年8月7日(水) オープンキャンパスの開催

令和6年度総合科学部オープンキャンパスを対面とオンライン(ZoomおよびYouTubeライブ)のハイブリッド形式で開催、県内外の多くの方々(1346名)に参加いただきました。

### \*令和6年9月3日(火)～4日(水) 令和6年度地域系大学・学部等連携協議会に参加(主催校:岐阜大学)

令和6年度地域系大学・学部等連携協議会が岐阜大学で開催され、地域学系大学・学部の教育・研究・組織運営等にかかる課題について意見を交換しました。

### \*令和6年9月13日(金) 第29回新構想学部教育・研究フォーラムに参加(主催校:岩手大学)

第29回新構想学部教育・研究フォーラムが岩手大学を主催校としてオンライン(WebEx)で開催され、「新構想学部の現状と課題—理念・カリキュラム・全学連携・地域連携の視点から—」をテーマとしたシンポジウムへ出席し、意見を交換しました。

### \*令和6年10月17日(木)～18日(金) 第24回国立大学法人17大学人文系学部長会議に参加(主催校:富山大学)

第24回国立大学法人17大学人文系学部長会議が富山大学で開催され、人文系学部の教育・研究・組織運営等にかかる課題について意見を交換しました。

### \*令和6年10月24日(木) 在学生と学部長との懇談会の開催

学生8名、教職員5名が参加し、学部のカリキュラム、学生生活、施設・設備等について意見交換を行いました。いただいたご意見は、今後の教育・研究環境の改善に反映させてまいります。

### \*令和6年10月24日(木) 優秀学生(3年次学生)表彰式

学業成績が優秀な学部学生(3年次学生)に贈られる優秀学生表彰式があり、優秀学生9名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

[国際教養コース] 近藤 史菜

[心身健康コース] 野口 優花、河野 遙香

[公共政策コース] 伊藤 優里、小林 優哉

[地域創生コース] 小坂優里菜、矢野 千春  
西 のどか、佐藤 美桜

### \*令和6年11月～令和7年2月 総合科学部公開セミナーの開催

一般市民向けの総合科学部公開セミナー「人文・社会知への誘い」をオンラインで2回開催しました。

・第34回：石原由貴講師「インターフェースへの意味付けを考える～WEBからVR、聖地巡礼まで～」(令和6年11月29日)

・第35回：紺田俊講師「エンデュランススポーツを通じた地域活性化～ひわさうみがめトライアスロン参加者調査データから集客戦略を考える～」(令和7年2月7日)。

### \*令和7年2月20日(木) 康楽賞贈与式

徳島大学の優秀な専任教員および学生を対象として、公益財団法人康楽会から贈られる「康楽賞」の贈与式が長井記念ホールで行われました。総合科学部関係の受賞者は次の方々です。

[教員の部 学術研究関係]

大学院社会産業理工学研究部准教授 佐原 理

[学生の部 学術研究関係]

総合科学部4年 藤田はずき

総合科学部2年 桧 妃菜

創成科学研究科 地域創成専攻2年

西條真結乃、河見 竜摩

創成科学研究科 地域創成専攻1年 王 雨欣

[学生の部 奨学生関係]

総合科学部4年 工藤 有紗

総合科学部3年 喜多谷彩葉

### \*令和7年3月25日(火) 令和6年度卒業式・修了式

令和6年度の卒業式・修了式がアスティとくしまで行われました。学部卒業生は173名、大学院修了生は創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻16名、臨床心理学専攻11名。また、学位記・卒業証書の受け渡しの式を学部の講義室で行いました。

### \*令和7年3月25日(火) 令和6年度優秀学生(4年次学生、大学院生)表彰式

学業成績が優秀な学部学生(4年次学生、大学院生)に贈られる優秀学生表彰式があり、優秀学生12名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

[大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻]

西條真結乃

[大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻]

井原 奈桜

[国際教養コース] 八木 史穂、下川 愛璃

本村 優心

[心身健康コース] 東條 朱華、工藤 有紗

角井 天祐

[公共政策コース] 加藤 胡優、岡本 奈桜

[地域創生コース] 光永 悟、梶浦 瑞希

### \*令和7年3月25日(火) 渭水会会長賞表彰式

研究活動等で優れた成果を挙げた学部・大学院学生に贈られる渭水会会長賞表彰式があり、4名の学生を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

[大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻]

西條真結乃

[国際教養コース] 秋月さくら

[公共政策コース] 後藤 亮、加藤 胡優

### \*令和7年4月7日(月) 令和7年度入学式

令和7年度の入学式がアスティとくしまで行われました。入学者数は、総合科学部173名、大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻16名、臨床心理学専攻11名、博士後期課程創成科学専攻22名。

### \*令和7年5月31日(土) 令和7年度渭水会総会の開催

令和7年度の渭水会総会を第1会議室で開催、予算などの審議、総合科学部創立150周年記念事業等についても報告を行いました。

### \*令和7年6月26日(木) 令和7年度総合科学優秀賞受賞者表彰式

優れた研究成果を発表した総合科学部教員に対して贈られる総合科学優秀賞に榎本拓哉准教授が選出され、表彰式が行われました。受賞にかかる研究分

野は「人間文化・人間社会の向上に関する基盤研究」です。

### 【人事異動】

#### \*コース長の紹介

総合科学部社会総合科学科の各コース長に以下の3名が選出されました。任期は令和7年4月1日～令和9年3月31日までの2年間。

国際教養コース 山口 裕之 教授

心身健康コース 佐藤 充宏 教授

地域デザインコース 豊田 哲也 教授

#### \*教職員の異動

令和7年3月31日付で次の教員が退職されました。

HERBERT WOLFGANG 教授(比較宗教学)

中村 豊 教授(考古学)

熊坂 元大 准教授(応用倫理学)

令和6年10月1日付で次の教員が着任されました。

榎 将太 准教授(健康教育学)

令和7年4月1日付で次の教員が着任されました。

東風谷太一 准教授(ドイツ近現代史)

山口 雄治 准教授(考古学)

藤原 秀朗 講師(運動疫学)

越坂 裕太 講師(日本近世史)

令和7年4月1日付で次の教員が昇任されました。

田中 佳 教授(フランス文化史)

山本 哲也 教授(臨床心理学)

令和7年4月1日付で次の事務職員が着任されました。

岩森 清澄 氏(総合科学部事務課長)

笹原 互 氏(総合科学部事務課総務係長)

佐藤 千尋 氏(総合科学部事務課学務係主任)

# 徳大ニュース

1

## 徳島大学公式ファンクラブ『縁側キャンパス』会員募集中です

地域社会との結びつきを深め、地域中核の役割を果たすことを目指して、徳島大学公式ファンクラブ『縁側キャンパス』を設立しました。同窓会の皆さまをはじめ本学にゆかりがある全ての方に下記QRコードよりご登録いただくことができます。

『縁側キャンパス』では、会員サービスとして会員限定ウェブサイトを開示しており、卒業生・修了生へのインタビューの記事や課外活動団体からのお知らせといった記事のほか、本学に関するお役立ち情報などを掲載しています。



2

## 徳島大学初 本学附属図書館所蔵「伊能忠敬測量図」が国の重要文化財に

本学附属図書館所蔵の「伊能図」3種10点・地図箱2点が、「伊能忠敬測量図(いのうただたかそくりょうず)」の名称で国の重要文化財に指定されました。徳島大学として、初めての重要文化財指定となります。

「伊能図」は、江戸時代、伊能忠敬が日本全国を測量し作成した日本地図の総称です。当初は忠敬による個人事業として始められましたが、その後幕府事業として進められ、忠敬の没後、文政4年(1821年)に「大日本沿海輿地(よち)全図」として完成しました。

このたびの重要文化財指定を受け、今後とも関係者の方々と協力しながら、貴重な文化財を後生に残すべく取り組んでまいります。

3

## TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2025を開催しました

GIVING CAMPAIGNを10月10日～19日に開催しました。卒業生の皆さまをはじめ14,439人からの応援と温かいメッセージが寄せられました。

このイベントは、国公私立大学・大学生の学生団体活動の支援を目的とした、大規模なオンラインチャリティイベントで、本学学生団体の取組を全国に発信することにより、各企業をはじめとした支援者による支援金が参加学生団体へ分配される仕組みです。

本イベントは本年度で4回目の開催で、今回も同窓会の皆さまをはじめたくさんの方々より応援とご支援をいただきました。

また、本年度は多数の県内企業より本イベントへ協賛を賜りました。12月に開催予定の参加学生団体を表彰する「感謝の会」にて、協賛企業と学生が交流します。

4

## 文部科学省「令和6年度地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されました

本学はJ-PEAKSに採択され、本年度より事業を開始しています。本学に集結した4つのイニシアティブ「光工学」「慢性炎症研究」「栄養学」「情報科学」の知の融合を源泉とし、基礎研究と国内外でのスタートアップを核とした社会実装の循環経路を確立し、創造的超高齢社会の実現に資するイノベーションを生み出し続ける研究大学へと発展することを10年後のビジョンとしています。

ビジョン実現に向け、1)研究特区の設置による「研究力強化」、2)事業化、スタートアップ創出・育成に最適化された研究開発マネジメントによる「産学連携・イノベーション創出」、3)徳島県民の健康改善と産業創出への貢献による「地域連携」、これらを柱として大学改革に取り組んでまいります。

## 徳島大学公式SNSと各種サイトのご案内

徳島大学公式ファンクラブ  
『縁側キャンパス』



徳島大学びざん会  
Facebook



徳島大学びざん会



徳島大学公式X



# 事務局だより

## ●助成事業の申し込みについて

助成事業の要項に該当する事業をご計画の会員がおられましたら、お申し込みください。P33の申請書をコピーしてお使いください。事務局にご連絡いただければ、様式（Word形式）をお送りします。お問い合わせ・お申し込みについては事務局までお願いいたします。

## ●異動届のお願い

会員相互の親睦等同窓会活動に、また、会報のお届けにと名簿は、涓水会にとって、重要な財産のひとつです。名簿の整備・管理には、鋭意努力しておりますが会員の皆様方のご協力が不可欠です。

現在、転居等により会報をお届けできていない会員も多数おられます。お手数ですが異動等ございましたらその都度事務局までお知らせいただければ幸いです。

会員数も膨大になり同姓同名の会員もおられます。誤記を避けるためにも、卒業（修了）年、課程（学科）、専攻（コース）、旧姓を記載いただき、できるだけ文書・ファックス・メールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

## ●終身会員募集中！会費がお安くなりました

涓水会は昭和54年入学生より終身会費制になりましたが、まだご存じない方がおられます。2023年に終身会費を改定し、気軽に入会できる価格となりました。終身会員には卒業生や大学の情報満載の会報

## 終身会費納付額(2023年6月改定)

卒業（修了）年	納付額
昭和45年以前	1,000円
46～51	3,000円
52～57	5,000円

郵便振替口座番号 01610-1-21392  
加入者名 徳島大学涓水会

が郵送されます。同窓会の折に、ぜひ終身会員になってくださるようお勧めいただければ幸いです。

なお、会報がお手元に届いている方は、既に終身会員です。ご自分が終身会員かどうかわからない方は、事務局までお問い合わせください。

## 涓水会事務局

事務局は総合科学部1号館北棟1階入り口すぐ（部屋番号1N01）です。

業務時間および連絡方法は、以下の通りです。

時間／水曜日 13：30～17：00

（祝祭日および大学の休業日は除く）

TEL 088-656-7293（月～金 10：00～17：00）

FAX 088-679-8485

E-mail [info@isuikai.jp](mailto:info@isuikai.jp)

URL <https://www.isuikai.jp>

## 編・集・後・記

●徳島大学総合科学部創立150周年記念イベントから1年。多忙を極めました。振り返ってみれば「学園祭みただったなあ」と。なかでも、モニュメントの制作・設置の現場に関わることができたのは貴重な体験でした。炎天下での設置作業、台風対策の「さらし」を求めて徳島市内のドラッグストアをハシゴしたこと……いろんな非日常が思い出され、除幕式での作者・武田さんのご挨拶には込み上げるものがありました。

●徳島大学名誉教授で、徳大の生き字引的存在だった吉森章夫先生が急逝されました。涓水会にとっても大きな存在でした。ご生前のご功績に感謝申し上げるとともに心よりご冥福をお祈りいたします。

## 総合科学部クイズ解答(問題はP9)

- 問1 1. 徳島師範期成学校
- 問2 1. ある
- 問3 2. 他の時代
- 問4 3. タバコ吸い競争
- 問5 1. 1908年 師範学校時代
- 問6 2. ちると連
- 問7 2. 徳島師範期成学校創立100周年の寄附
- 問8 3. 土俵





ユーカリの花 (総合科学部キャンパスにて)



渭水会